

第3学年 道徳学習指導案

日時：平成20年9月29日（月）5校時

児童：男子17名 女子15名 計32名

指導者：3年1組 担任 佐守直人

1 主題名 友だちのよさ 【 友情・信頼 2-(3) 】

2 資料名 たまちゃん、大好き 【 東京書籍 】

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本時の主題に関しては、学習指導要領の指導内容項目において「2 主として他の人とのかかわりに関すること (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」として示されている。友達と仲良くし、助け合うことは、集団生活をしていくうえでとても重要なことである。それゆえ、学校生活のあらゆる場で仲よくすることの心地よさや安心感を実感できるようにすることが大切である。また、市教研道徳部会の目標は「豊かな心を持ち、よりよい生き方を求める児童・生徒の育成」である。子どもたちは、友達と活動していく中で、お互いに助け合い、信頼を深め合うようになる。そのことを経験することで、一人一人が豊かな心を持ち、よりよい生き方を求めるようになっていくであろう。

そこで、児童一人ひとりに友達の良さを認識させ、助け合い、信頼し合うことの尊さやすばらしさを3学年のこの時期から十分感得させることをねらいとし、本主題を設定した。

(2) 児童について

学級の児童は、32名の比較的素直で何事にも前向きな子どもたちである。男女の仲も良い雰囲気、学級全体が落ち着いた様子も見られる。しかし、相手の気持ちを考えたり思いやりたりすることは未発達で、自分の主張をして利己的に行動する児童が多い。また、ちょっとしたことでも、友だちの言動を気にしてふさぎこんでしまう児童もいる。

そこで、本授業を通して、あらためて友だちについて考え、助け合うことの尊さや心地よさについて考えさせることによって、それを大切にする心情を育てていきたい。

(3) 資料について

誰もが知っているちびまるこちゃんの話が資料になっている。主人公まる子は、たまちゃんと待ち合わせた神社の木の下で夕方まで待ったが、たまちゃんは留守番のため来られなかった。まる子は悲しさのあまりタイムカプセルを投げ捨ててしまう。さらに次の日、たまちゃんの言い訳も聞こえず、まる子はその日ひとりぼっちで帰ることになる。家で火の当番を頼まれ、まる子も同じ立場になってみて、初めてたまちゃんの気持ちを理解してお互いに理解し合うという内容になっている。

お互いの立場を理解してこそ、ともに友だちを大切にしようとする態度が養われていくのだということを本資料の学習を通して考えさせていきたい。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

友だちどうし互いに理解し、助け合おうという心情を育てる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動と主な発問	期待される児童の心の動き	指導上の留意点
導	1 友だちとけんかしたときの気持ちについて話し合う。 (価値への方向付け)	・いやだなあ、悲しいなあ。 ・向こうが悪いんだ。 ・仲直りできるかな。 ・	○価値へのスムーズな導入を心がけるようにする。
	2 資料「たまちゃん大すき」	・二人が仲直りできてよかった	○気持ちをこめてゆっ

入 7分	を読み感想を発表する。	たなあ。 ・二人がお互いに大すきと書いたことがすてきだなあ。 ・ともだちっていいなあ。	くりと読む。 ○資料を読んだ感想を発表させ、今日の学習へとうまくつなげていくようにする。
展 開 前 段 25分	3 タイムカプセルを作って明日たまちゃんとうめることにした主人公の心情を考える。	・何を書こうかな。 ・早く一緒にうめたいなあ。 ・明日が楽しみだなあ。 ・たまちゃんは何か書くのかな。	○明日のことを楽しみにしている主人公の状況と心情を考えさせるようにする。
	4 待っても来ないたまちゃんを待っているときの主人公の心情を話し合う。	・どうしてたまちゃんは来ないのかな。 ・あれほど約束したのに。 ・タイムカプセルなんかもういらない。	○待っても来ないたまちゃんに憤りを覚え悲しい気持ちになる主人公に共感させるようにする。
	5 おなべの火を見ているときの主人公の気持ちを考える。	・タイムカプセルなんか作らなければよかった。 ・たまちゃんも一生けんめいするすばんをしていたんだ。 ・どうして許してあげなかったんだろう。	○主人公のいらだちや葛藤など、多様な気持ちに共感させながら価値につなげていく。
展 開 後 段 8分	6 たまちゃんにだきつき、なみだがとまらない主人公の心情を考える。	・たまちゃんごめんね。 ・たまちゃんは大切な友だちだよ。 ・ずっと大すきだよ。	○これからもたまちゃんを大切にしていこうとする主人公の気持ちに共感させる。
	7 これまでに友だちがいてよかったと感じたことを思いだし、学習シートに記入する。 ※こころのノート（P42）	・転んで怪我をしたときに心配して保健室までついでしてくれた。 ・係の仕事が終わらない時に手伝ってもらった。 ・遊ぶ人がいないときや家に帰る友だちがいないときに声をかけてくれた。 ・マラソンで辛いときに励ましてくれた。	○これまでの自分の生活のなかでももだちにしてもらってうれしかったことを素直に書かせる。また、そのときの自分はどう感じたかを振り返らせるようにする。
終 末 5分	8 教師の説話		○価値の押しつけはせず、余韻を残して授業を終了するようにする。

(3) 本時の評価

友だちどうし互いに理解し、助け合おうという心情を育てることができたか。

5. 資料分析表【ねらい：友だちどうし互いに理解し、助け合おうという心情を育てる。】

主要場面	主人公の意識	児童の意識	意識の焦点化	主な発問
<p>まは年をプに まん十紙カと 子、後書セし とおのいれた た互相てを。 まい手タ作 ちににイる ちゃ二手ムこ</p>	<p>たななタうだ まこ。イめな ちとムる。 ちゃカの ん書プが にこセ楽 どうルし んかをみ</p>	<p>二紙てまとある 人をきるをしう で書だ子書たな おくなはくが。 互な。どの楽 いんんかし にてななみ 手すこ。だ</p>	<p>くがが。 書なた子 をししる とくあま こわ、な なくえみ んわ考し だから楽</p>	<p>手、ない。 にらんでう んがどえよ ゃなは考し ちり子を まふるとの たをまこた</p>
<p>たまはかまタ土。 で方局分あたをる 社夕結がのっルて 神をがとさ作セ捨 はんたこしでプげ 子ちゃっい悲人力投 るち待な、二ムに ままで来りりイ手</p>	<p>どだ約つこいタン うろ束きんたイて しうしだなのムい て。た。ににカラ 来のにも。プな な。に待っせい。 い。う。て。な</p>	<p>ずたまいたをい いんるそま破。 ぶだ子うちる んろち。ゃな 長うゃんん くなんはて 待。か約ひ っわ束ど</p>	<p>悲ま信て しち用い みゃでる のんきま あのなる まこく子 りとな。 たをっ</p>	<p>てがっ子で っんかるた たゃなまっ でち来、思。 ままにきうう つた社とどよ いも神たはし</p>
<p>さおがのい断。 母たなんじをる おれ見ゃおいす 、まをち、誘と は頼火ま考のっ 子らのたをんは るかべ、とちやて まんならこちっ</p>	<p>ム作たちめてでっ イかっまんしんか タンかたけをなな ム作たちめてでっ ム作たちめてでっ ム作たちめてでっ ム作たちめてでっ</p>	<p>たけをまたがな まんしるま氣。 ちめて子ちに ゃいいはゃな んるたやんる もすんっのん 一ばだばこだ 生ん。りと</p>	<p>おい分氣 じをのが い断過つ ちちちく ゃたにま ん時はる のにっ子 誘自と。</p>	<p>見まこた を、ない。 火らんでう のがどえよ べなは考し なめ子を おつるとの</p>
<p>ちれお二でな ちらけ、がら まけかとりま たかをく直止 はを手つ仲が 子声土きも涙 るに、だとして。 まんでり人きい。</p>	<p>たね大セまたしだ ま。切ルっまのよ ち。なをたち大。 ゃ。タな。ゃ切 ん。イク。んな ごムしは友 めカてわだ ん。プし。たち</p>	<p>まま好二きた るちき人てな。 子ゃなと本。 はんも当 本のだ仲に 当こな直よ にと。りか たがでっ</p>	<p>たつ切が子 まさき止。 ち、にま ゃ友氣ら んだ付な にちきい だの、ま き大涙る</p>	<p>いない。 なんてう らどえよ まは考し 止子を がるとの 涙まこた</p>

たまちゃん大すき

タイムカプセルをうめるやくそく

何を書こうかな。
早くいつしよにうめたいな。
明日が楽しみだなあ。
たまちゃんはどんなことを書くのかな。



待っても来ないたまちゃん

うそつき
あれほどやくそくしたのに
タイムカプセルなんかもう
いららないよ。



おなべの火を見ながら

タイムカプセルなんか作ら
なきやよかった。
たまちゃんも一生けんめい
るすばんをしていたんだ。
どうしてゆるさなかったん
だろう



たまちゃんにだきついてな

みだがとまらないまる子
たまちゃんごめんね。
たまちゃんは大切な友達
ちだよ。



たまちゃん大すき

まるちゃん大すき

・るすばんを
たのまれていた。
・ごめんね。
・かなしそうな顔
・かぎをかければ
よかった。
・まるちゃん本当
にごめんね。

